

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたくないとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

重症頭部外傷患者におけるくも膜下リンパ様膜（SLYM）破綻所見に関する
後ろ向き観察研究

1. 対象となる患者さん

2021 年 4 月～2026 年 3 月の間に当院で重症頭部外傷で入院し、頭部 MRI を撮影された患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学 放射線診断・IVR 学講座 宮坂 俊輝

3. 研究の目的と意義

近年、脳の表面を覆う膜の構造として、これまで知られていた 3 層の膜（硬膜、くも膜、軟膜）に加えて、第 4 の膜である「くも膜下リンパ様膜（SLYM）」と呼ばれる新しい膜が発見されました。この膜は脳脊髄液の流れを区分けする働きを持つと考えられていますが、頭部に強い外傷を受けた際に破れる可能性が指摘されています。

この研究では、すでに撮影された頭部 MRI 画像を見直して、重い頭のけがをされた患者さんの脳の中で、この「くも膜下リンパ様膜」の破綻を示すと考えられる所見がどのくらいの頻度で見つかるかを調べます。

この所見を明らかにすることで、頭部外傷後の脳脊髄液の異常や、慢性硬膜下血腫の発症リスクの理解、さらには将来的な認知機能障害の予防研究に役立つことが期待されます。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテや MRI 画像から収集し、重症頭部外傷における SLY 破綻を示唆する所見の有無や、他の脳の所見（脳挫傷、びまん性軸索損傷、硬膜下血腫、脂肪塞栓など）との関連を調べます。

この研究のために新たな検査や治療を行うことはなく、患者さんへのご負担は一切ありません。

5. 使用する情報

診療情報

- 年齢、性別
- 受傷の状況（交通外傷、転倒など）
- 入院時の意識レベル（GCS）
- 入院から MRI 撮影までの日数

画像情報

- 頭部 MRI 画像（T2 強調画像、SWI）

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2027 年 3 月 31 日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 総合画像診断センター 宮坂 俊輝

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：tmiyasaka@naramed-u.ac.jp